

医療最前線

失語症とは？②
言語聴覚士が臨床で出会う
言語障害について



言語聴覚士 柴百香

【図1】短い言葉・「はい」「いいえ」で答えられる質問



【図2】ジェスチャーを用いたコミュニケーション



【図3】図を用いたコミュニケーション



体の調子	悪い	普通	良い
食欲	ない	普通	ある
痛み	とても痛い	少し痛い	ない

■失語症の方への接し方
失語症は見えない障害であるため、症状が理解されにくいです。認知症や記憶障害、精神障害などと誤解されがちですが、あくまでもコミュニケーションに関する能力に障害が起きている状態です。知的能力や状況判断能力は保たれていることが多いです。そのため、接する側も「失語症は認知症や精神障害とは違う」ということを理解したうえで、適切なコミュニケーションを取る必要があります。

①簡単な言葉を使おうとするあまり、子どもに話しかけてしまうことがあるかもしれません。思考能力は一般人と同じです。

②会話は焦らず、落ち着いた雰囲気で行いましょう。

③ゆっくり、はっきり、短い言葉で伝えましょう。

④「はい」「いいえ」で答えられるような質問をしましょう。

⑤実物や図、ジェスチャーを使いましょう。

⑥話題を急に変えないようにしましょう。

⑦大声で話しかけないようにしましょう。

耳が聞こえにくい場合、これまでたくさん工夫やアイデアを述べてきましたが、コミュニケーションを取るにあたって最も大切なことは「寄り添ってあげる姿勢を示すこと」です。どうしても伝わらない時には分かたさず、正直に話しましょう。

（梶川病院（広島市西区天満町）言語聴覚士 柴百香）

簡単な言葉を使おうとするあまり、子どもに話しかけてしまうことがあるかもしれません。思考能力は一般人と同じです。

③ゆっくり、はっきり、短い言葉で伝えましょう。

④「はい」「いいえ」で答えられるような質問をしましょう。

⑤実物や図、ジェスチャーを使いましょう。

⑥話題を急に変えないようにしましょう。

⑦大声で話しかけないようにしましょう。

耳が聞こえにくい場合、これまでたくさん工夫やアイデアを述べてきましたが、コミュニケーションを取るにあたって最も大切なことは「寄り添ってあげる姿勢を示すこと」です。どうしても伝わらない時には分かたさず、正直に話しましょう。

「コミュニケーションを」として、本人も分かりやすいと感じて意思疎通が図りやすくなります。【図1】

「コミュニケーションを」として、本人も分かりやすいと感じて意思疎通が図りやすくなります。【図1】

「コミュニケーションを」として、本人も分かりやすいと感じて意思疎通が図りやすくなります。【図1】

■おわりに

失語症は長期のリハビリテーションを行っても、言語の機能が病前と同じ状態に戻ることは難しく、多くの人が後遺症を抱えながら生活していかねければなりません。しかし、日常の中で言葉を使う場面があれば長い年月をかけて少しずつ良くなっていくという報告もあります。家族や周囲の人が失語症について正しく理解し、失語症の皆さんが楽しくコミュニケーションを取れる環境をつくっていきましょう。